

静岡県東部地域企業経営動向調査

(2013年4-6月期実績、2013年7-9月期見通し)

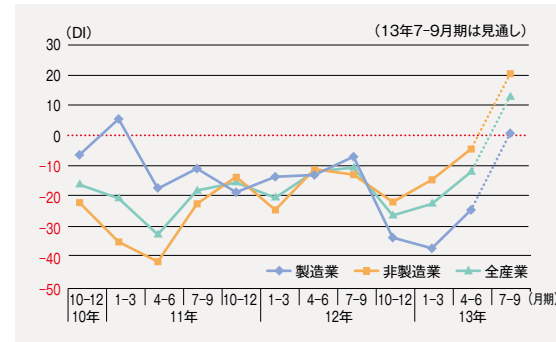
1 業況概要(自社)

非製造業で前期に続き上昇、製造業も回復に転じる

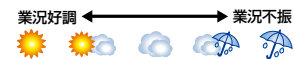
静岡県東部地域における2013年4-6月期の業況判断DI(対前年同期比)は全産業で-11.7(前期-22.2)と2期連続して回復した。うち、非製造業では旅館・その他宿泊所では横ばいとなったが、建設業や卸・小売・サービス業で改善が進み、全体でも-4.2(同-14.3)と引続き上昇した。一方、製造業でも食料品やパルプ・紙・紙加工品などで判断が改善され、-24.2(同-36.8)と回復に転じた。

2013年7-9月期の予想DIは、全産業で13.2と今期比で大幅に上昇している。売上・利益動向の予想DIが高水準にある非製造業では20.5、製造業でも

1.0とプラス水準への回復を見込んでいる。



業種別天気図



(2013年7-9月期は見通し)

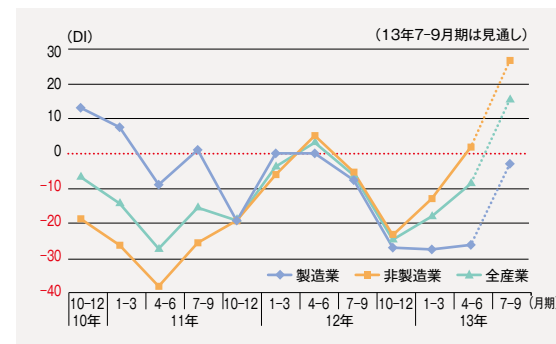
業種	2013年1-3月期	2013年4-6月期	2013年7-9月期
製造業	☁️	☁️	☁️
食料品	☁️	☁️	☀️
紙・パルプ・紙加工品	☁️	☁️	☁️
一般機械器具	☁️	☁️	☁️
非製造業	☁️	☁️	☀️
卸・小売・サービス業	☁️	☁️	☀️
旅館・その他宿泊所	☁️	☁️	☀️
建設業	☁️	☀️	☀️

2 売上動向

非製造業では改善も、製造業はわずかな上昇

2013年4-6月期の全産業の売上動向DI(対前年同期比)は-8.7(前期-18.1)と2期連続して改善が進んだ。製造業では、その他製造業で上昇したが、食料品や金属製品など他の業種では前期比低下したため、DIは-26.3(前期-27.6)とわずかな上昇にとどまった。一方、非製造業ではその他小売・サービス業等が大幅に上昇し建設業、旅館・その他宿泊所でも改善が進んだことから、DIは1.8(前期-13.0)とさらに回復が進んでいる。

業が26.7、製造業も-3.0と大きく上昇している。



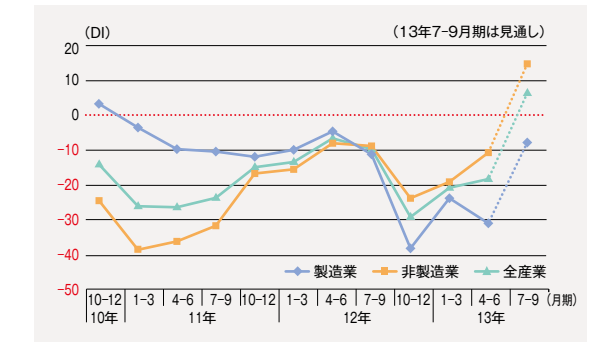
2013年7-9月期の予想DIは、全産業で15.5と今期比大幅な上昇が見込まれる。業種別では非製造

3 利益動向

製造業は悪化に転じるも、非製造業は回復傾向続く

2013年4-6月期の全産業の利益動向DI(対前年同期比)は-18.6(前期-21.1)と若干上昇した。製造業では、一般機械器具で上昇したが、食料品や金属製品など他の業種で低下したため、DIは全体で-31.3(前期-24.1)となり足元の利益環境は前期に比べやや悪化している。一方、非製造業では、建設業や旅館・その他宿泊所、その他小売・サービス業等で前期比上昇したことから、DIは全体で-11.0(前期-19.4)と回復傾向が続いている。

れも今期比で大幅な回復が見込まれている。



2013年7-9月期(見通し)の予想DIは、全産業で6.1、うち製造業では-8.1、非製造業では14.5とい

4 経営上の問題点

「原材料・仕入商品の値上がり」が大幅に増加

「受注・売上の停滞・減少」(56.2%)は前期比若干減少、「過当競争・製品安」(39.2%)は横ばいとなった一方、「原材料・仕入商品の値上がり」(37.7%)が製造業や卸・小売・サービス業などで

さらに増加した。また、「人件費の増加」も卸・小売・サービス業や建設業で回答数が増加している。

項目	12年10-12月期		13年1-3月期		13年4-6月期		順位変動
	企業	比率	企業	比率	企業	比率	
1. 受注・売上の停滞・減少	178	69.0	146	58.9	149	56.2	→
2. 過当競争・製品安	114	44.2	97	39.1	104	39.2	→
3. 原材料・仕入商品の値上がり	41	15.9	73	29.4	100	37.7	↑
4. 人材の育成	90	34.9	84	33.9	89	33.6	↓
5. 従業員の高齢化	53	20.5	60	24.2	65	24.5	→
6. 人件費の増加	36	14.0	37	14.9	48	18.1	↑
7. 生産・販売能力の不足	61	23.6	54	21.8	46	17.4	↓
8. その他経費の増加	47	18.2	52	21.0	46	17.4	→

※13年1-3月期は速報値から確定値に修正しています。

調査の概要

1. 調査目的 / 静岡県東部地域(富士川以東)の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握
2. 調査対象企業 / 静岡県東部地域に立地する企業636社 回答数265(回答率41.7%)
3. 調査方法 / 当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査
4. 調査対象期間 / 実績:2013年4-6月期 見通し:2013年7-9月期
5. 調査時点 / 2013年5-6月

DI: ディフュージョンインデックス(Diffusion Index)の略。「上昇、増加、好転」した企業割合から「下降、減少、悪化」した企業割合を差し引いたもので、業況判断を見る指標です。

*この他、今回は「新東名の影響」「円安の影響」についても調査を実施しています。調査結果は弊社ホームページ(<http://www.srgi.or.jp>)をご覧ください。